事例No.	3089
公表年度	R6
団体の属性	中核市
団体名	神奈川県横須賀市

事例区分	DX

タグ	・AI ・人材確保・育成

事例種類	事業効率化

事例内容・タイトル

神奈川県横須賀市における生成AIの取組状況

出典

自治体におけるAIの利用に関するワーキンググループ（第1回）

神奈川県横須賀市における生成AIの取組状況

第29回自治体DX検討会資料
（令和６年５月22日）

神奈川県横須賀市ヒアリング概要

※ヒアリング時資料等を基に事務局作成

（１） 生成AIの活用状況

項目	内容	備考
利用サービス	・ChatGPT	・令和５年４月から実証開始、同年6月から本格導入 ・同年８月に他自治体向け問い合わせボットの運用を開始
利用対象	・全職員	・**職員の約60%（2,300人／3,800人）が１回以上利用** ・部署ごとの活用率の偏りは小さい（企画系部署の活用率が若干高い）
利用分野	・限定無し（広範な分野で活用）	・文書作成、要約、校正、ブレスト、思考整理、エクセル関数作成

（２） 生成AIの活用による効果

○ 業務の効率化　（年間22,700時間以上の業務時間削減効果と推定）
○ 業務の質の向上
※アンケートやヒアリング、利用ログの解析により把握

（３）生成AIの導入・運用にあたっての工夫等

○ 個人情報の入力の禁止等一定のルールを定め、周知
○ **「ChatGPT通信」を庁内発行し、定期的に好事例の横展開を図る等の取組により、職員の積極活用を推進**
○ アドバイザーのサポートのもと、市民向け問い合わせbotの検証のため、職員にプロンプトインジェクションを実施させる「ホワイトハッカーコンテスト」を開催※4,000件の攻撃に対し、50件程度の不適切な返答があったため、改善中

ヒアリングを踏まえたやりとり

○ **全体の30%程度の職員が日常的に利用**
○ 「多くのマスメディアでの報道により職員が自分ごととして捉えたこと」、「原則として各職員が自由に使えるようにしていること」、「好事例やユーモラスな利用例の展開が職員の関心を引いたこと」等が利用率の向上に寄与
○ 特に、**好事例等を定期的に展開し、生成AIに触れるための意識付けを進めたことが、利用率の向上に効果的であった**ものと考察